

新島襄のこころ—イメージを通して— (5)

神学者E・A・パーク

竹中正夫

ボストンの中心部のペーコンヒルトとよばれる小高い丘には、黄金のドームをいたたく州庁舎がある。その前のペーコン通り一四番地に九階建てのガッチリした建物がある。この建物は一八九七年の定礎でコングリゲーションナル・ハウスとよばれ、米国会衆派教会の本部とアメリカン・ボード（会衆派の海外伝道機構）の事務局がそこにおかれていた。その建物の二階が図書室となっており、コングリゲーションナル・ライブラリーとよばれている。

静かな読書室の左右の隅に大理石の胸像がおかれている。向って右は、神学者エドワーズ・A・パークであり、左は、ボストンの商人アルフィアス・ハーディーである。パークは新島がアンドーバー神学校で

学んだときの恩師であり、も一人のハーディーはニューヨークランドにおける新島の保護者であった。新島の生涯に影響を及ぼしたこの二人がこの読書室において対坐していることに単なる偶然以上のものを覚えている。説明文には、このライブラリーの設置を提唱したのがパークであり、ハーディーは米国会衆派教会の最初の会計をつとめていたことが記録されている。

エドワーズ・A・パーク (Edwards Amasa Park) は一八〇八年にロード・アイランド州のプロビデンスに生れた。父はブラウン大学の哲学の教授であり、母は敬虔なキリスト者であった。若いときから学問を好み、一四歳でブラウン大学に入学し、クラスで最年少であったがギリシャ語では

最優等であったという。アンドーバー神学校に入学し、一八三一年に卒業した。アーモスト大学で哲学およびヘブル語を教え、一八三六年よりアンドーバー神学校に招かれ、当初は説教を担当し、一八四七年から一八八一年に七三歳で引退するまで組織神学の教授であった。彼は、一方において、保守的な固陋な神学と戦い、他方においては、自由主義的なユニテリアン主義を排しニューヨークランド神学の伝統を守ろうとした。引退するころには、アンドーバー神学校においては自由主義神学が強くなり、自らがおす人物を後継者となすことが出来なかつたことから、彼は、ニューヨークランド神学の最後の主唱者といわれている。一八九八年、彼の九〇歳の誕生日にあつて弟子たちは盛大な祝会を催し、各年代における彼の写真を七枚入れて、『パーク教授とその弟子たち』と題する書物を刊行した。天地宇宙に及ぶ神の経綸、良心論、救済論、教会論などは、新島襄の信仰に大きな影響を与えたといえよう。

(大学神学部教授)



エドワーズ・A・パーク